



2024-25年度 上田ロータリークラブ

- 会長 金子 良夫 ● 副会長 柳澤 雄次郎・三井 英和
- 幹事 酒巻 弘 ● 会報委員長 小林 浩太郎

第2976回例会 (令和7年3月10日)



ホームページQR

[会長挨拶]

金子 良夫 会長

今日は、映画監督の神山征二郎さんをお招きしています。監督の2回目のスピーチを楽しみにしています。



「シンペイ 歌こそすべて」の中では、女優松井須磨子さんが印象的に描かれています。松尾町に松井須磨子の記念碑があります。私の夜、街に出ると松尾町の坂を下りていき駅からタクシーで帰りますが、その時に須磨子の記念碑を見つけました。

松井須磨子は、松代町小林家に生まれ、6歳の時に上田松尾町の洋品店、長谷川友助家の養女となり、明治33年に上田尋常小学校を卒業しました。記念碑には詳しい場所はわからないが松尾町あたりに長谷川家があったと記されていました。その記述を見た瞬間、私の司法書士としての職業意識が芽生えてきました。日本の登記制度というのは明治20年から始まりました。須磨子は明治19年生まれですからほぼ同じ頃です。須磨子の養女先の場所が不詳というのですから、こういう場合は法務局に土地台帳という登記制定当時の古い帳簿があります。そこには地権者の名前が出てきますから、松尾町あたりを調べれば、長谷川家がどこにあったのか特定できるのではないかと思います。ですから、記念碑は少し調査不足であるなど感じました。誰でも無料で閲覧できますから、昔のことを調べたい人は閲覧いただければと思います。須磨子についてお話するため、須磨子のことを調べていましたら、残念なニュースを目にしました。須磨子の演劇上のパートナーである早稲田大学教授であった島村抱月の墓所が墓じまいにより更地になってしまったそうです。

抱月の墓は東京雑司ヶ谷霊園と抱月の故郷、鳥根県浜田市にあったそうですが、両方とも2年前に親族の

墓じまいにより片付けられてしまって、気づいた演劇関係者が保存価値のある場所なので復活のため取り除かれた墓石等を探しているということでした。抱月ほどの有名人の墓も、今流行の「墓じまい」でなくなったということでした。

私も四人兄弟のうちすでに二人が亡くなっていて実家の墓じまいをどうするかと考えていましたので、このニュースは大変興味深く、有名人でも「墓じまい」が及んでしまうことに感慨深く思いました。今日はこの後、神山監督のお話がありますので挨拶はこの辺にしたいと思います。

[ゲストスピーチ]

映画監督 神山 征二郎 様



どうぞよろしくお願いたします。

前回呼んでいただいて、私はなんで上田市と関わりがあるのかとか、どうやって監督になったとか、慎平さんの映画をなぜ撮ることになったかということ言ってるうちに、25分が過ぎちゃいまして。今回は引き続き、ちょっといい話をしようと思います。

まずは私が監督した作品。映画「シンペイ 歌こそすべて」。上田のTOHOシネマズでは、3ヶ月半ぐらいにわたって、超ロングランをやっていたいただきました、記録的なお客様に見ていただいて本当にありがたかったです。

東京の劇場も、割合人気が出まして、たくさんの方が見ていただきましたが、一番びっくりしたのは、青木村の方の話を新聞記事で見たのですが、21回見ましたって。劇場行って観てるんです。DVDで21回観たのではなくて、劇場に3ヶ月の間に21回通ってくださった青木村の73歳の方で、大変びっくりしました。私も、好きな映画を、今はDVDがありますから、好きな映画を何十回も観ることは

ありますけど、65歳くらいのイタリアの方で、奥様が日本人で、私が30数年前に撮影した「ハチ公物語」という作品があるのですが、彼はそれを100回観たと言われました。今回の「シンペイ」は2回3回と観てくださる方がいらっしゃって、この仕事をしていて初めての体験かもしれません。すごい経験をしました。

今日お話しするのは、私の専門分野なのですが、骨法10カ条というのがあります。骨の法ですね。ここに小さく書いてあるのは、「秘伝骨法10カ条」とあります。これは昔中国へ行ったときに、映画のシンポジウムではございましたが、公式のお土産として、北京で最も腕がいいという方が掘った落款なんです。

この骨法10カ条はもちろん私が編み出したものでも何でもありませんが、中国には京劇というのがあり、そこのお芝居を作るときの劇作のコツが書いてあるんです。10カ条だから1から10まであるんです。

その1その2、その10ってあるんですけど。これを昔は日本映画界が全盛で、映画の撮影所があった頃、私どもは監督も俳優もみんな社員だったんですよ。社員で雇えるほど、昔の60年ぐらい前ですけども3日上映したらやめられないぐらい映画界が儲かってた時代があるんです。

その頃までは撮影所というのがありましたから、撮影所には監督部や脚本部というのがありまして、脚本家も社員でいたんですよ。その脚本家がこれを知ってまして、でも教えないんです。秘伝ですから、やたらと人に教えるな。っていうんですね。見込みのある後輩1人だけに教える。みたいなことを言われている骨法10カ条なんですね。これ全部もう1時間ぐらいかけてお話しすれば皆さんすぐ脚本家になれるぐらいすごいことが書いてあるんですけどね。商売敵ができちゃいけませんから(笑)今日は最初の四つだけ教えます。

その1は「コロガリ」と言います。物語は映画ですと大体長くて2時間。短いのは1時間40分ぐらいのもんです。

だから、2時間の仮に時間として、そのしょっぱな。出だし。ぱっと始まるわけですから、何か起きそうだっていうふうを書くわけですよ。ドラマを見ようと思って皆さん映画館に来てるわけですから、どんな物語だろうと思って、当然期待を持ってきてるわけです。

この話は何か起きるぞ。例えば、黒澤明さん監督の用心棒だったら、昔は宿場町がありますね。ここで言えば海野宿。それこそ各種にあって、中山道とかには必ず宿場がある。

宿場というところは賑やかなところですから、昼間はたくさんの方が往来してるわけです。それが、パッと映すと、誰も人がいない。昼間なのに、そうすると何か変な感じがしますよね。宿場なのに人がいない。そこへ画面の横から強そうなやつが、三船敏郎が背中ですっと入ってくる感じです。

宿場に人がいないってことは何か異常なことがある。きっとこの街には訳がある。そこへ主役っぽいのが入ってきた。この不思議な、人がいない街に風来坊がふわっと入ってきた。きっとこの町の問題を、この男が解決するんじゃないか？お客さんはそう想像するんですね。

それが「コロガリ」です。そうすると、ぱっと身構えるんです。観る方が。どんな物語が始まるんだろうかって。このしょっぱな話の入口に、何かが起こりそうだっていうふうに書きなさいって書いてある。シナリオの書き方なんです。

その2は、「カセ」です。手かせ足かせって言いますね。罪人に手のかせ、足に付ければ足かせです。つまり物語には必ず主人公がいます。主人公の人生なり、その生き方を追っかける。「シンペイ」で言えば、中山晋平さんの生涯を描いてるわけですから、その主人公にカセをかけるわけですね。



例えばラブストーリーでしたら、この世の中では、人は結婚しますよね。でも奥さんは恋愛して結婚しても、あるいは恋愛じゃなくて、家と家の事情とか、本当は好きじゃないけど結婚するってことは、ないことではありません。よくあることでした。

経済的な事情で結婚する場合も多いですから、必ずしも愛が全てで結婚するわけじゃない。例えば恋愛映画であれば、愛が一番大事なものの。そして、でも妻がいるけど、本当はこっちの別な人が好きだ。ってことそれはよくありますよね。そんな難しい珍しいことじゃないですね。だからそれを本当の愛を縛るカセ。それは家庭。家庭には子供も妻もいますし、守らなきゃいけないものがありますけれど、本当はその男にとって一番心から愛してるものは別なところにいるっていう、そういう話ができるわけです。

つまり恋愛映画にとっては、一つは家庭ってものがカセになる。その本人を生活上縛るものです。例えばフランス映画でこういう映画がありました。幸福ってタイトルでして、女流監督さんが作った映画で、もうずいぶん前の映画ですけども、幸福と書いて幸せという意味でした。ごく平凡な家庭で、結婚して子供も2人ほどいる。日曜日の朝かなんかに家族4人で朝ご飯食べてたら、窓の外に

引っ越しのトラックがすーっと入って来る。隣か近くの家に新しい人の引っ越し荷物を積んだトラックがやってきて女性が降りてきた。それが主人公の昔の恋人なんです。

それは全く偶然で、意図してきたわけじゃないけど、昔の彼女が隣のうちへやってきた。っていうのも何か起こりそうな気がしますよね。男は嬉しいというよりもドキッとします。これがこの男にとってのカセで、家庭がカセになる。ということです。

次に3です。これはオタカラって言います。主人公にとって一番大切なもの。例えば命は誰だって一番大事ですけど、円満な家庭だとすれば、家族はオタカラですよ。それからある財産を持ってるとすればその財産もオタカラになります。

そのオタカラとは、心の宝もあるし、財産とか。命に代えても大事にしている骨董品を持ったりしてますが、それは一種のオタカラなんです。

次は最後の4は、カタキです。このオタカラを狙うやつ。カタキを必ず設定しなさいって言うんです。主人公があって、その人には命に代えても、非常に大事なものを持ってる。それを狙うカタキ。悪いやつですね。これを必ず設定しなさいって言うのがこの骨法10カ条の4です。

その後5、6、7、8、9と続いて最後に10。これだけは話しちゃいますけど「題目」テーマですね。このドラマによって君は何を描きたいか訴えたいかっていうものです。

これはテーマですから、例えば主人公の運命をドラマにしますと、一生懸命やってるときに邪魔が入って、すごい苦しんで、苦しんで苦しんで苦しめられて、でももう我慢ができないって主人公は心が折れそうになる。それからそれを何とか克服しようとして努力する姿を描く、そうすると、可哀想な主人公と観客は感じて、泣かせる場面が出てきます。

そういうのを10カ条に分けてやったのがこの骨法10カ条で、これをちゃんと踏まえれば本当にいいドラマができるんです。ところがですね、**私が今日お話ししたいのはそういうものを後進なり後輩に伝達していく術がもう今なくなってるわけです。**撮影所が大体なくなりましたよね。

東宝さんは撮影所だけはありますけども、ほとんどそこでは映画作ってません。東映にも撮影所がありますが、ほとんどそこでは映画作ってません。テレビ

ドラマやってるぐらいです。そうするとおのずからみんな解雇されて、バラバラになって、だから映画作りにとって一番大事なものを伝承するシステムがもうなくなってます。

今でも昼間見ると藤田まことさんの昔のドラマとか、半分は韓国のドラマを、BSなんかでほとんどやりますよね。6チャンネルあるとすれば3チャンネルは藤田まことか昔のサスペンスドラマです。

それから半分はほとんど韓流ドラマですけども、一番有名なのは「冬のソナタ」、あれももうずいぶん20年ぐらい前になりますけども、もう旦那さんは当の昔にお酒飲んで寝てるのに、奥さんが夜中の11時30分、毎日観るほど面白いわけですよ。それは何でそんなに面白かったかという、これ。骨法10カ条をやってるんです。主人公散々苦しい思いして、それを克服し、あるいは愛を邪魔する奴がいっぱいいて、それを克服していくドラマじゃないかと思うんです。

言ってみれば簡単な原則物事の原則を伝承する。今私が喋ってるのは映画界だけのことですけどね。でも今日お集まりの皆さんは、いろんな企業とか責任者をなさってる方が多いので共感してくださると思いますが、今、日本映画の現状は本当にひどいんです。

私は53年前に映画監督になってますけども、そのときに映画界がガーンとテレビに押されてます。年間14億人あったお客さんが一気に3億人ぐらい減っちゃうんです。やがて3億人どころか1億5000万人ぐらいに減るんです。日本人が映画館で映画を見る数は、かつては年間14億人いたんです。それが今では、今年は1億5000万になったとか1億4000万だったとか記事になってました。少なくとも10分の1に減ってるんです。映画を観る方の数がね。

映画が駄目になったかというそんなことはないです。韓国や中国は今大変盛り上がっています。わかりやすい例で言いますと出演した俳優さんのギャラですね。出演料あるいは監督に監督料というのありまして、大雑把に言って中国の映画の監督さんのお給料は日本の映画の監督の10倍ぐらいです。日本ですとせいぜい1000万ぐらいです。私も一生懸命一番働いた頃それぐらい、上から次5番目ぐらいの高い監督でしたけどね。

中国の売れっ子監督はギャラだけで一応1億円ぐらいなんですよ。しかもお客さんもいっぱいいます。中国には1万か所ぐらい映画館があります。ということは、映画そのものが駄目になったんじゃないです。韓国もそうです。韓国はいろんな映画やりますけども娯楽映画も当然ありますけど、社会派や戦争のものであるとか、社会の矛盾みたいの描いた結構きつい内容もそれほどお客さんが集まってるんです。

30数年前までは全く逆でした。中国の映画とか韓国の映画はもう私達目から見るとちょっとまともには見えないくらいレベル低かったです。それが30年の間に、中国の経済の発展なんて今思っているより遥かにすごいです。

同じように、私どもの映画界もそういうことが起きていて、今度の「シンペイ」も昨年約2年間準備をし、一昨年、秋から撮影して今年の去年の4月に撮影は終わりました。

そういう中で今は、若いスタッフがいないんですよ。私は監督で助監督が大体4人か5人必要なんですけども、私どもの時代には助監督とは大体20代です。大学卒業して、一番下の人が22~23歳。チーフ助監督で上の方が30歳から35歳。働き盛りの人がやったんですけど、今は1人もいないんです。だけど助監督がいないと映画はできませんから、一生懸命探して募集かけたりするんです。そうすると、今50歳とか55~56歳の人が助監督で来るんですよ。55歳は昔定年退職の年ですよ。大昔でしたら。それが今の日本映画の現状で、映画は大勢の人が集まってやる仕事なんで、監督ひとりでするもんじゃないんです。

「シンペイ」もこうやって作って皆さんに喜んでいただけましたけど、それくらい大変な思いをして作ったんです。この上田だけでなく、長野県下いろんな方々に応援していただいて作った映画なんですけど、どうしてもお金が集まりきれなくて、本当にやりたい予算の65%ぐらいの予算でやったんです。そうするとどうなるかっていうと、映画って50人ぐらいの人が集まってやりますが、毎日それにお金を払うわけです。

そうすると2日分を1日でやる。例えば、この場面を作るのに本当は2日かかるんだけど、1日でやってくださいってことになるわけです。山奥の安いホテルを提供していただきましたが、撮影を終えて宿に帰ったら12時頃なんです。次の朝5時に起きて出発して。これが1回か2回なら耐えられるんですけど、たびたび重なって、体力的に無理だあって思ったこともありました。日本映画というのは、ここまで追い込まれておまして、何とかしなきゃと思ってはいるのですが、一人の力ではどうにもならないものです。せめて皆さんに喜んでもらえる映画をなんとか作っていかうと思っています。

皆さんの仕事の世界に、この話が役立つかどうかは全然わかりませんが、日本の映画は今そういうところにあります。そしてそんな中で「シンペイ」っていうのは生まれたんでございます。というお話を、今日はこれで終わりにします。どうもありがとうございました。

[幹事報告]

酒巻 弘 幹事

1. 地区事務所 ガバナー月信3月号
電子ブックURLのお知らせ
6月22日 カルガリー国際大会
ガバナーアップルナイト開催のご案内
2. 上田西RC 新旧会長・幹事引継ぎ開催のご案内
3. 会報恵送 松本西南RC



[ニコニコBOX]

田中 克明 委員長

- 飯島幸宏さん 石井懋人さん 伊藤典夫さん 内河利夫さん 小熊直人さん 金子良夫さん 柄澤章司さん 窪田秀徳さん 桑澤俊恵さん 小山宏幸さん 酒井喜雄さん 酒巻弘さん 佐藤倫さん 滋野眞さん 島田甲子雄さん 島田太一さん 春原宏紀さん 関啓治さん 関勇治さん 滝沢秀一さん 田中克明さん 田邊利江子さん 成澤厚さん 比田井美恵さん 藤森幸路さん 保科茂久さん 三井英和さん 矢島康夫さん 上原文明さん



本日喜投額 29名 ￥ 40,000
累計 ￥1,345,000

[例会の記録]

司会：保科 茂久 会場・出席委員長
斉唱：国歌・ロータリーソング

- 会長挨拶 ●幹事報告
- ゲストスピーチ 映画監督 神山 征二郎 様

[ラッキー賞]

- 藤森 幸路さん(滋野 眞さんより 雪中梅)
神山征二郎さん(柳澤雄次郎さんより とらやのようかん)
矢島 康夫さん(柳澤雄次郎さんより とらやのようかん)
島田甲子雄さん(布施修一郎さんより 万座温泉のお土産)
上原 文明さん(布施修一郎さんより 万座温泉のお土産)

[出席報告]

保科 茂久 委員長



	本日	前々回 (2/10)
会員数	52	5
出席ベース	50	51
出席者数	42 <small>コロナ欠席0</small>	36
出席免除(b) ()内は出席者数	4(2)	4(3)
出席免除(a)	0	0
メイクアップ ()内は Make up 後		2(38) <small>コロナ欠席0</small>
出席率	84.00	74.51

[次回例会予定]

3月24日(月) 会員卓話 小幡 晃大 青少年奉仕委員長
『ロータリーの友』紹介

(3月17日発行)

【会報担当】 島田 太一 会報委員